

第74回デジタルドキュメント研究会・概要

『ソーシャル・ネット×アーカイブ ～コミュニティの記録、記録からの再発見～』

2010年1月29日(金)

インフォミーム株式会社代表取締役
(特)はりまスマートスクールプロジェクト理事長
総務省地域情報化アドバイザー

関西学院大学非常勤講師
兵庫県立大学大学院環境人間学研究科博士後期課程

和崎 宏 kotatsu@memenet.or.jp

1

プロフィール

和崎宏(わさき ひろし) 1957年12月22日、福岡県飯塚市生まれ

インフォミーム株式会社代表取締役、2004年、兵庫県立姫路工業大学大学院環境人間学研究科修士課程修了、現在兵庫県立大学環境人間学研究科博士後期課程在学中。学校を核とした地域社会の再構築のために、ボランティアが校内LANを整備する運動「ネットデイ」のモデル化を成功した。

2004年日経地域情報化大賞(CANフォーラム賞)、2005年地域づくり総務大臣表彰、2008年日経地域情報化大賞(グランプリ)を受賞。国土交通省、総務省、文部科学省、兵庫県や自治体で各種の委員を務め、2007年より関西学院大学非常勤講師、総務省地域情報化アドバイザーとして活動中。

2006年に企画・開発した地域SNS「ひよこむ」の運営にたずさわり、日本型地域ネットワークとICTを融合させた「情報プラットホーム」による地域やコミュニティの活性化を目指す。

共著に『地域SNS最前線-Web2.0時代のまちおこし実践ガイド』(アスキー)、『地域をはぐくむネットワーク』(昭和堂)、『ネットデイで学校革命』(学事出版)、『IT2001なにが問題か?』(岩波書店)、『感性哲学』(東信堂)などがある。日本感性工学会、情報処理学会、日本情報経営学会会員。

2

信頼できる地域情報は、
 信頼性の高い空間の中で
 住民自らの手で積層される

3

日本における地域情報化の系譜

1960年代	『情報産業論』(梅棹忠夫) 『脱工業化社会』(林雄二郎, ダニエル・ベル) 『第三の波』(アルビン・トフラー)	
0期	未来の情報社会 の概念定義(夢)	
1985年頃	行政による 地域情報化	住民による 地域の情報化
1期	情報産業 の育成	草の根BBS パソコン通信
1995年頃		阪神淡路大震災 情報ボランティア
2期	電子行政 の推進	地域プロバイダ
2005年頃		
3期	ICTによる 人と人の つながりの活性	自前主義による 地域の情報化

4

本研究が目指す地域情報化の定義

行政による
地域情報化

住民による
地域の情報化

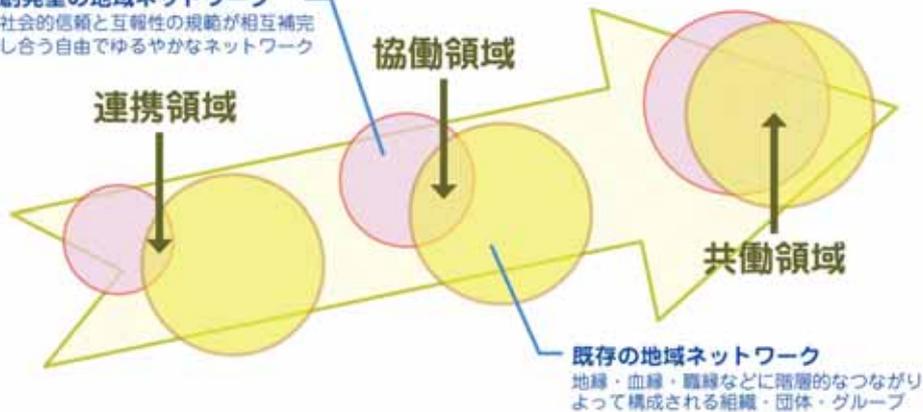
行政が地域全体と
共働で行う
地域の情報化

5

地域ネットワークの融合と協力の深化

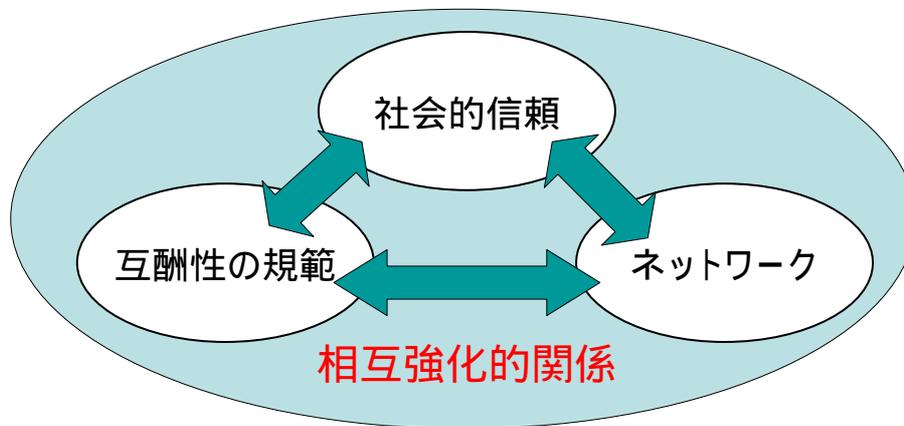
- 「共働」：社会的利益に動機づけられた協力(cooperation)
- 「協働」：互恵的な相互利益を確認した協力(collaboration)
- 「連携」：利己的利益に動機づけられた協力(connection)

創発型の地域ネットワーク
社会的信頼と互報性の規範が相互補完
し合う自由でゆるやかなネットワーク



6

ソーシャル・キャピタルの要素と相互関係



ソーシャル・キャピタルとは、人々の協調行動を活発にすることによって社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

Robert D. PUTNAM, 1993, " Making Democracy Work " 7

地域情報化の先行事例の共通要素

- ・ ゆるやかな連携を促す地域リーダーの存在
- ・ 官民協働による情報化プロジェクトが推進
- ・ インフォーマルな人的ネットワークが醸成
- ・ コミュニティ規模において潜在する地域力を覚醒

事例研究:

千葉県館山市(南房総IT推進協議会)

東京都三鷹市(シニアSOHO普及サロン・三鷹)

群馬県桐生市(桐生地域情報ネットワーク)

米国シリコンバレー地域(ジョイントベンチャー・シリコンバレーネットワーク)

ネットワークブリッジの役割

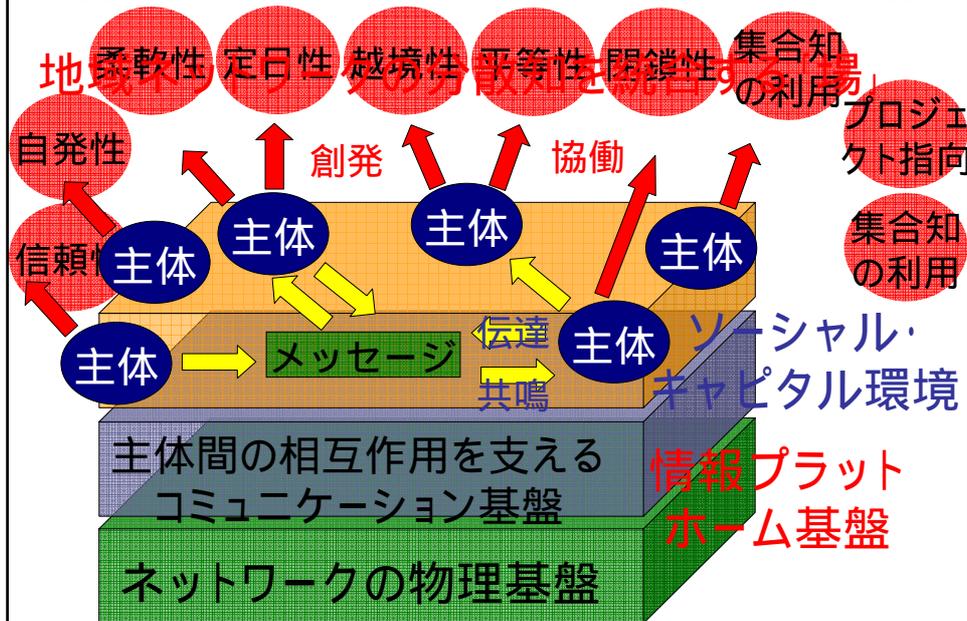
調整役 (coordinator) つなぎ役 (connector)	外向的・友好的で、ソーシャルネットワークどうしのつながりを生み出すことに時間と労力を費やす。
達人 (maven)	ソーシャルネットワークの任務や運営に関する特定の専門能力を磨き、他の者にもそういう存在であると認められている。
伝道者 (evangelist)	ソーシャルネットワーク内の新たなアイデアや人材、プロセスに関する「よいニュース」を宣伝し、他の者のあいだに情熱を呼び起こす。
橋渡し役 (boundary-spanner)	誰が何を知っているのかという情報を、ソーシャルネットワーク外部のグループ(組織外のグループであることが多い)に広める。
門番 (gatekeeper)	ソーシャルネットワークと外部の世界の間で、半透膜のような役割を果たし、ネットワークに出入りする情報の流れを制御する。

出展: ドン・コーエン+ローレンス・ブルサック『人と人のつながりに投資する企業』(2003)より、和崎が抜粋して作表

リアル社会のブリッジ役は短命だが、インターネットがそれを変えた!!

9

情報プラットフォームとソーシャル・キャピタル環境



國領二郎(2006)の「情報プラットフォーム概念図」に、和崎(2009)がソーシャルキャピタル環境を加筆して作成

10

日本型地域ネットワーク的思考とWeb 2.0

	結縁ネットワーク・講(結)	Web2.0・SNS
自発性	設立・運営・加入・脱退は個人の意志に任される	自発的な参加が基本であり、サイト内のほとんどの機能が誰にも公開されていて自由に利用出来る
閉鎖性	年齢層・地縁・職縁・経済など多様なネットワーク形態を持ち、それぞれがほどよく閉じた状態で運営される	公開制限によって、コンテンツは発信者の意図により制御出来る
定日制 (関係性の更新)	プロジェクトの節目や定期的に寄り合いを開いて意志決定を行う。決められた日に寄り合って宗教的行事を行い、飲食を共にする(共食)。	主催者による定期的な行事だけでなく、コミュニティやブログから派生する突発的イベントでの交流により、随時関係性が更新される
柔軟性	同じ形態のまま持続させることのみを追求せず、結成したり解消したりを柔軟に繰り返す。	多様なアプリケーションとの連携を行ったり、オープンソース化の推奨により、多くの開発者がマッシュアップを行うことを推奨する
越境性	空間的広がりを持つ中小の共同体メンバーや同業者が自発的にユニットを形成する。身分の越境もある(無礼講)	ブリッジ役を担う人材によって、ユーザーの意志でサイト内外の空間を融合的交流の場として活用できる
平等性	出資や寄与の多寡と関わりなく全員が平等の権利を有する	性別・年齢・障害・病気などによる区別がなく、ユニバーサルなコミュニケーション環境が作られる
その他	ネスティング構造、プロジェクト指向、信頼性、両者は類似した性格を持っている	集合知の利用、分散ネットワークなどにおいて、

11

地域SNSによるコミュニティ活性化への仮説

「地域でSNSを動かすと、自発した人がどんどんつながる」

情報システム技術の基盤に、社会学的知見や数学的理論を加え、更に地域現場にあわせた日本型地域ネットワークを活かした設計・運用を行うことで、ネットワーク接続への自発を地域で生み出す

「地域は4人で繋がっていることを可視化できる」

住民のパーソナルネットワークを接続していくことによって、それぞれの認知ネットワークが拡張・融合され地域のソーシャルキャピタルが構築される。

「地域SNSは地域力を覚醒させる」

住民間に「常時接続性」と「可視化されたパーソナルネットワーク」を実現するコミュニケーションを提供し、信頼と互酬性を醸成しながら相互の紐帯を強化し、しなやかな互恵の相互扶助関係のもと、新たな連携や協働を促進することで、共働を創発する社会基盤(地域情報プラットフォーム)となる。



12

広域SNSと地域SNSの対比

	自由登録制の地域SNS	広域SNS(mixiなど)
利用者数	少ない(数万以下)	多い(数十万以上)
主たるエリア	狭い(都道府県まで)	広い(全国)
利用者の中心年齢	比較的高い(30-40代)	若い(20代が中心)
利用者間のつながりの数	比較的少ない 比較的多い	比較的多い(10以上)
利用者間のつながりの強さ	比較的強い 強い	弱い(バーチャル性が高い)
現実社会との関係	比較的低い 強い	薄い
サイトの安心感・安全性	高くない 高い	低い
利用者の実在性確認	なし 実在確認、実名招待制	なし
サイトの信頼性	比較的低い 高い	低い
利用者間の信頼	比較的高い 高い	低くない
サイト全体の互酬性の認知	比較的低い 高い	低い
利用者の互酬性の認知	比較的高い 高い	比較的低い
コンテンツの公開制御	なし 個別コンテンツにおける制御	なし
グループ活動支援機能	なし グループウェア機能の充実	なし
他のSNS間との連携	なし 実装	なし

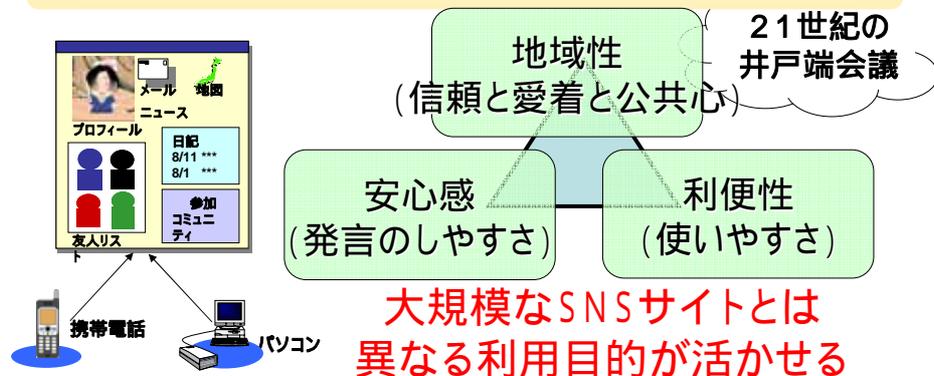
和崎(2010)が参与観察をもとに作表 13

期待される地域SNSの概要

地域SNS

個人を起点とした信頼性の高い社会的ネットワークをインターネット上に構築

**時間的・場所的な制約を超えた情報交流空間
登録メンバーの顔が見えるコミュニティサイト**



c.f. 電子会議室・・・匿名を許容した場合、情報の信頼性が欠如したり、荒れる可能性がある。

14

地域に順応するバーチャルネットワークの考察

- ・より開放的に
- ・より高速に
- ・より広域に
- ・より大量に
- ・より正確に
- ・より効率的に
- ・より効果的に

- ・ほどよい閉鎖性を保つ
- ・ゆっくり余裕を
- ・狭域のメリットを活かす
- ・付加情報に意味がある
- ・たわいもない交流も大切
- ・無駄にも意味がある
- ・現実社会を補完する役割

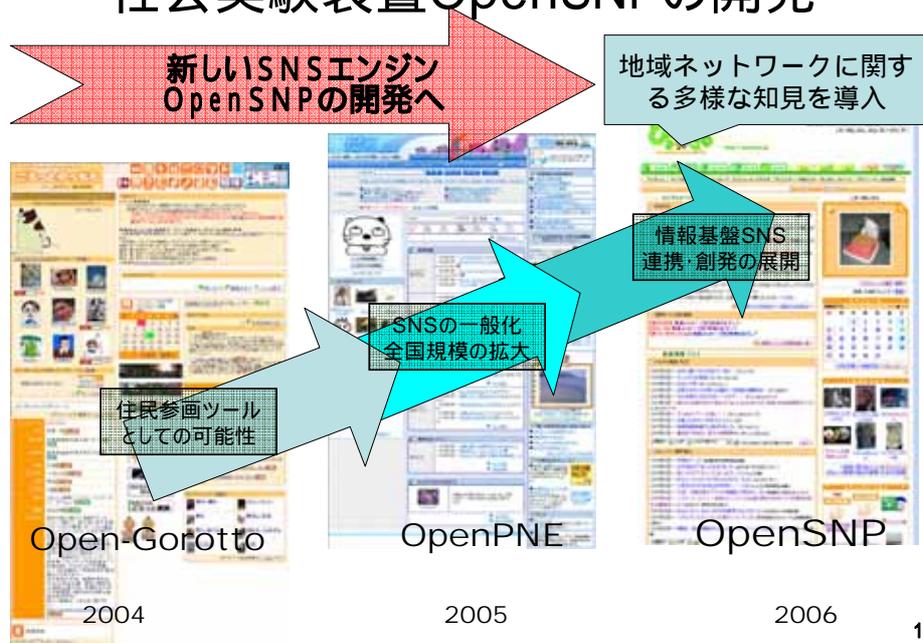
いつでも
どこでも
だれでも

バランス感覚

いまだけ
ここだけ
あなただけ

15

社会実験装置OpenSNPの開発

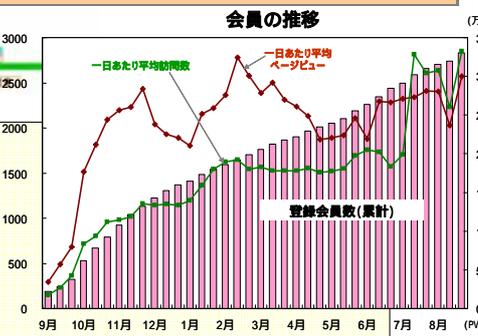


16

ひよこむ(兵庫県エリアの地域SNS) <http://hyocom.jp/>



会員の推移



ひよこむの特徴

- 信頼できるネットワークづくり
- 実名登録制、完全紹介制、後見制
コンテンツのアクセスコントロール
- 充実したコミュニケーション機能

電子地図、カレンダー、動画登録、地域通貨機能、地域SNS間連携、地域モール、インターネットTV、カーナビ・地デジTV連携

リアルな地域活動につながった事例

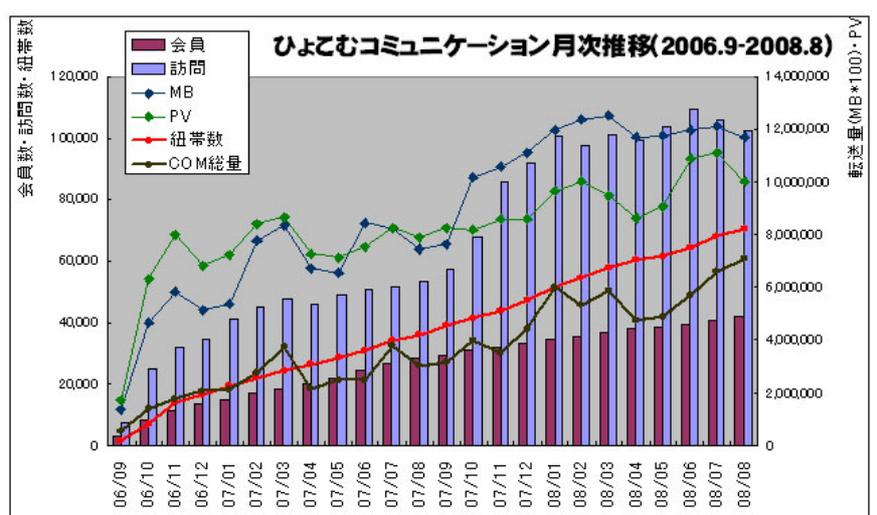
国際ため池シンポジウム、地域SNS全国フォーラム、
1.17防災情報訓練、姫路おでん、姫路城の清掃活動

牧慎太郎・兵庫県企画県民部長と共同で作成(2007)

17

地域SNSサイトの活性指標に関する一考察

ひよこむコミュニケーション月次推移(2006.9-2008.8)



コミュニケーション総量が着実に増加しているのが、賑わい感のあるサイトの特徴である。サイトの沈滞感は踊り場現象として、会員数停滞や減少にも現れる。(和崎の調査による)

18

ひよこむ統計データ(開設後1,165日)

登録ユーザ数	5,428名
アクティブユーザ数	765名 (最終ログイン1週間以内) 1,304名 (最終ログイン1ヶ月以内)
トモダチリンク総数	有効数:45,318件 依頼中:5,221件
コミュニティ数	957件 (415人)
コミュニティピック数	26,157件 (1,221人)
コミュニティ返信数	74,679件 (1,848人)
コミュニティイベント数	4,230件 (476人)
ブログ数	107,840件 (1,716人)
ブログコメント数	617,051件 (1,954人)
メッセージ数	683,911件 (4,765人)
男女比率	男:3,765名 / 女:1,663名
平均年齢	44.2868歳

2009年12月16日現在

19

主要な地域SNSの統計比較

	ひよこむ (兵庫県)	ハマっち! (横浜市)	あみっぴい (千葉市)	お茶っ人 (宇治市)	ひびの (佐賀県)
調査日	09/05/28	09/06/15	09/05/29	09/03/31	09/03/31
登録ユーザ数	4,988	2,643	3,104	1,736	9,435
アクティブユーザ数 (1ヶ月)	1,650	715	583	587	1,252
コミュニティ数	885	623	1,318	319	414
コミュニティピック数	23,321	9,413	2,284	5,245	6,294
トピック返信数	68,011	23,913	18,277	35,726	102,116
ブログ数(日記数)	84,502	15,120	27,965	31,749	104,745
ブログコメント数	495,676	25,889	106,611	195,689	821,736
男性/女性	3,462/1,526	1,470/1,173	1,990/1,330	1,000/736	5,514/3,921
SNSエンジン	OpenSNP	OpenSNP	OpenPNE	Open- gorotto	OpenPNE
登録方法	実名・招待 ・後見	実名・招待 ・後見	実名・招待	実名・ 自由登録	仮名・ 自由登録

和崎(2009)が、各サイトの情報システム管理者にヒアリングを行い調査 20

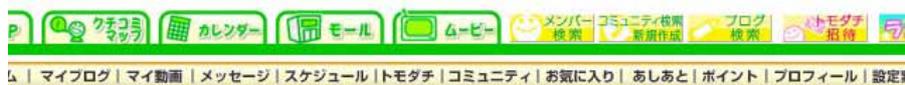
アクティブユーザーあたりの統計比較

	ひよこむ (兵庫県)	ハマっち! (横浜市)	あみっぴい (千葉市)	お茶っ人 (宇治市)	ひびの (佐賀県)
アクティブ率(1ヶ月)	1,650	715	583	587	1,252
登録ユーザ数	3.02	3.70	5.32	2.96	7.54
コミュニティ数	0.54	0.87	2.26	0.54	0.33
コミュニティトピック数	14.13	13.17	3.92	8.94	5.03
トピック返信数	41.22	33.44	31.35	60.86	81.56
ブログ数(日記数)	51.21	21.15	47.97	54.09	83.66
ブログコメント数	300.41	36.21	182.87	333.37	656.34
登録方法	実名・招待 ・後見	実名・招待 ・後見	実名・招待	実名・ 自由登録	仮名・ 自由登録

和崎(2009)が、各サイトの情報システム管理者にヒアリングを行い調査 21

ユーザ関係性動向調査

・サンプル数(回答数): 回答者数394人/リンク数4,263件



トモダチ度合いチェック

トモダチ度合いをチェックしてみましょう!
※トモダチになって一ヶ月以上のユーザをランダムに選定しております。

 いっつゆてな まけもの (藤岡 真澄)	2006/11/07から673日目	このトモダチとの関係は以前よりどうなりましたか?
	関係の深さ: 知人程度 接触の頻度: イマイチ	悪くなった ← ← ← ● → → → 良くなった
 まろ(かつし か) (佐藤 智洋)	2007/01/16から603日目	このトモダチとの関係は以前よりどうなりましたか?
	関係の深さ: これから 接触の頻度: これから	悪くなった ← ← ← ● → → → 良くなった
	2007/02/13から575日目	このトモダチとの関係は以前よりどうなりましたか?
	関係の深さ: 友人・同僚	悪くなった ← ← ← ● → → → 良くなった

22

人的関係と接触頻度の変化



すべてのレベルで、相手との関係が向上している



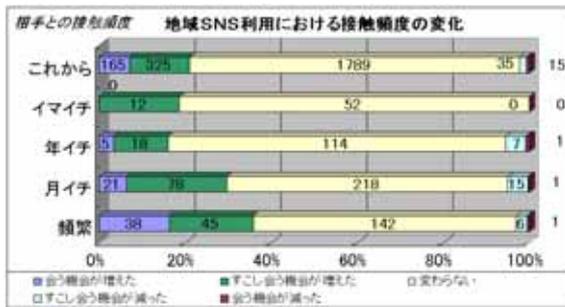
「頻繁」を除いて、相手との接触頻度が高くなっている

23

地域SNS利用による人的関係の向上



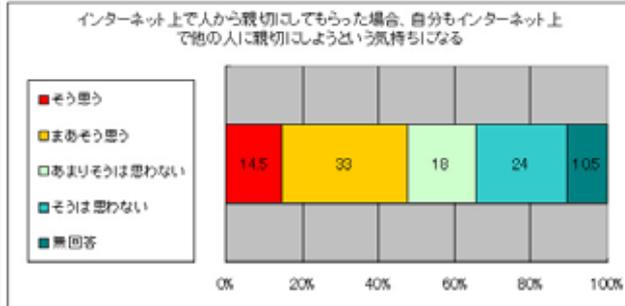
すべてのレベルにおいて3割程度は関係が向上。悪化はほとんどみられない



接触頻度が多かった相手ほど、さらによく会うようになっている

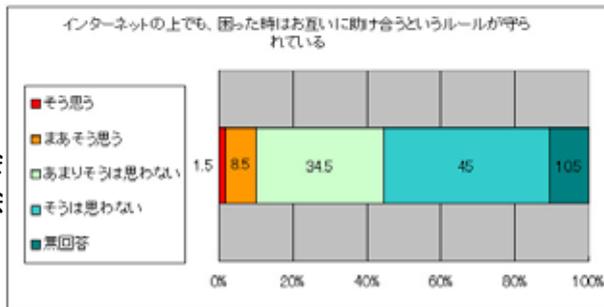
24

インターネットにおける「互酬性」に関する調査



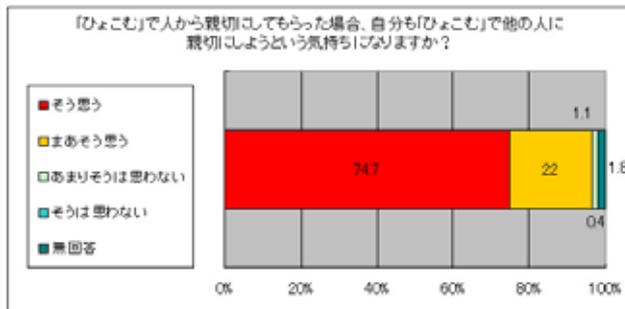
・サンプル数:
計画サンプル1320、
有効回答数は1002。

小林哲郎(編著),池田健一(著),2003,「インターネット利用と社会関係資本」,『日本社会心理学会第44回大会論文集』,日本社会心理学会,pp.146-147



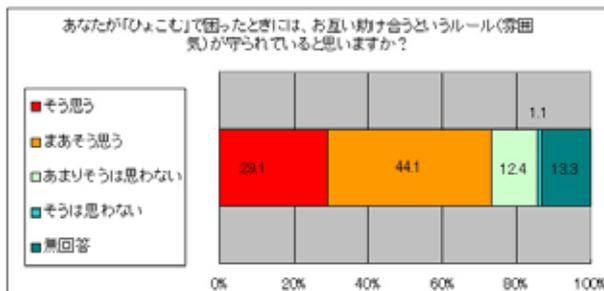
25

ひよこむにおける「互酬性」アンケート調査



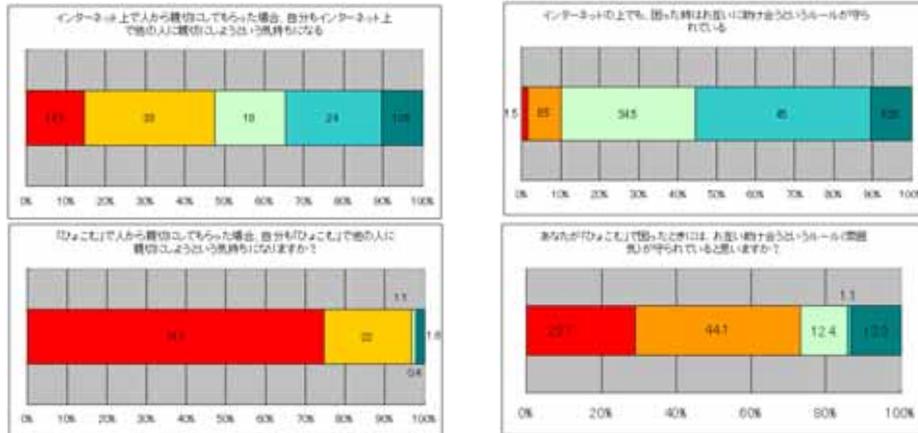
サンプル数(回答数)
一般的互酬性(442人)
互酬性の規範(354人)

和崎宏,2009,「地域SNS利用者の一般的互酬性アンケート調査」



26

一般的互酬性に関する意識比較



ほどよい閉鎖性が確保された「ひよこむ」では互酬性の規範が醸成され、「場」の信頼性が向上している。

- ・和崎宏(2008)「日本型地域ネットワークを活用した持続可能な地域SNSの設計と運用」『日本感性工学会論文誌 Vol.8 No.3』,日本感性工学会,585頁～594頁
- ・和崎宏(2008)「オンラインでの匿名性と倫理観」『コンピュータ&エデュケーション』(吉田等明編)東京電機大学出版局,pp.20-25

27

地域SNSで創発した官民協働によるさまざまな活動

コウトリバーチャル博物館



兵庫100山選定プロジェクト



ホッと宝塚・六甲全山縦走大会を盛り上げよう!



防災・防犯コミュニティ



地方の元気再生(都市・農山村交流)



地域力(エンパワーメント)の連携

